

議題2コロナ禍における子どもの状況及び取組について

・コロナ禍の子どもの居場所について【子ども部】

コロナ禍の子ども達の現状

●家庭環境に関すること

- ・親が在宅勤務等で自宅にいるようになり、衝突や喧嘩が増えた。家庭の相談が増えた。

●外出に関すること

- ・感染が怖いのでしばらく来館できなかった。

●学校に関すること

- ・学校に行くのが怖い、不登校に関する相談が増えた。
- ・部活がなくなり、体を動かさないという相談が増えた。
- ・学校に行かない時間が増え、生活リズムが崩れている子どもが見られた。

●活動制限に関すること

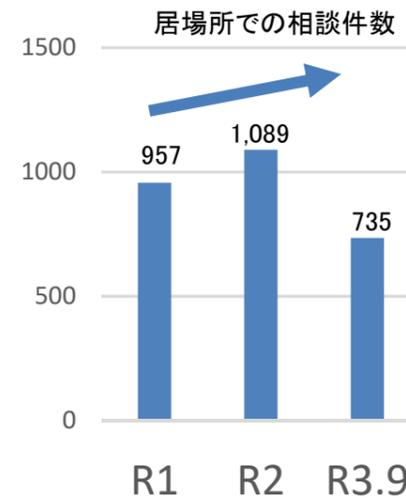
- ・学校行事等の実施が不透明になることで、目標を見失う。
- ・大勢で何かをすることができなくなってしまい不満。

●ストレスに関すること

- ・暴れたり、大声を出したりしてストレスを発散している。
- ・突然泣き出す等情緒不安定な様子が見られる。
- ・活動が制限せられており、無気力でつまらないという言葉が増えた。

※こども館、中高生の居場所スタッフへのヒアリングで上がってきた意見や事例の一部。

※上記以外に警察関係者より、コロナ禍で人と会うことが少なくなり、ゲーム機等の課金問題やSNSを通じて接触した人とのトラブルや事件が発生しているとの情報提供があった。



居場所での取り組み

●相談体制に関すること

- ・閉館中でも電話連絡が取れる体制を継続した。
- ・日常の様子を気にかけて声掛けをして聞くようにした。
- ・閉館中、地域の公園を巡回し子どもたちと話をした。

●居場所機能の充実

- ・館の窓に元気の出るような大きな絵を掲示した。
- ・こども館にも中高生相談スペースを設けた。

●活動支援

- ・閉館中も図書の出借を継続した。
- ・イベントを実施した。

●情報発信

- ・HPやInstagramなどのSNSで開館状況や声掛けを積極的に行った。

●その他

- ・要支援者に対する、フォロー(常盤平児童福祉館)

松戸市青少年プラザでの取り組み

●松戸市青少年プラザの概要

松戸市青少年プラザは、中高生世代の子ども達が家庭や学校以外の第3の居場所として、安全安心に利用できる施設。

【開設日】

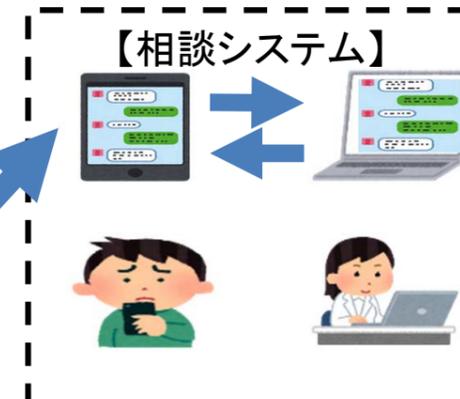
- ・令和3年12月19日(日)

【営業時間等】

- ・午前9時30分～午後8時30分
- ・休館日: 毎月第3月曜日及び年末年始

【施設概要】

- ・フリースペース
- ・多目的室
- ・相談室
- ・音楽スタジオ
- ・個別学習室
- ・コミュニティスペース



(1) 中核機能を持った管理体制の構築

- ・既存の中高生の居場所、児童館福祉、子ども館等を統括し、全体的なコントロールをできる体制を検討したい。

(2) オンライン相談体制構築

- ・LINE等を使用したオンライン相談体制構築し、来館困難時のフォローの充実を図る。
- ・各子どもの居場所と連携した相談体制の検討

(3) 段階に応じたプロモーションの実施

- ・従来のチラシ配布や学校訪問によるPRに加え、SNSへの投稿、口コミ利用促進などを展開し、継続的な利用につなげる。

(4) 子どもたちの「やりたいこと」の実現

- ・子ども達が自ら企画・実施する活動を支援する。